

2002.11

●行事予定／編集部だより 12

名古屋支部 20周年 記念大会

去る9月23日(月祝)、名古屋市農業センターで、名古屋支部設立20周年記念行事が執り行われました。当日は長期予報による雨の心配もなんのその、そこそこの天候に恵まれ、関係者をほっとさせました。ここに、その概要を少し述べてみたいと思います。

●実施までの経過概略

東三河支部の記念大会を受けて、当支部においても2001年5月1日の役員会において何らかの形で記念行事を持ちたいとの提案があり、尾張支部の動向を見ながら日程を調整し、内容も検討することがほぼ決定されました。

その後、9月24日の役員会において、改めて開催の有無、内容・時期についての提案がなされ、「歩みをまとめることは大切だ」とのことで、会の持ち方や参加者等について、とりあえずさまざまな案が出されました。

これを受けて、12月9日、もう少しつつこんだ内容の検討がなされ、1月の総会において提案がなされることになりました。

1月14日の名古屋支部総会において、提案をもとに実施することが採択され、期日を9月23日とし、実行委員長として浅井氏、副実行委員長兼事務局として滝田氏、会計として山原氏の選任がなされ、それに各観察会から1名程度の実行委員を募り、実行委員会が組織されることになりました。実行委員会は、早速1月24日にもたれ、その後、ほぼ月1回のペースでさまざまな検

討がなされました。

また、支部として、会の宣伝や盛り上げのため、今まで定期的な観察会がもたれていないところで「自然観察会ラリー」を行うこととし、4月から矢田川、新海池、城山八幡宮、八事興正寺、熱田神宮、名城公園で、3週間ごとに実施されました。

3月26日の役員会においては場所の決定がなされ、少々不便ではあるが、市の農業センターに決定した。内容についても大まかな検討がなされ、午前中観察会など、午後は講演会ののち茶話会、懇親会ということになった。

4月7日には下見もなされ、同月の室内例会からは、各観察会から歩みや現状などの報告をしあい、当日の資料作成に向けての準備が始まりました。この間に、チラシの検討、講演者の決定、来賓の決定等がなされ、当日の展示物の作成が各観察会で始まりしました。9月16日の実行委員会では日程などの最終的な確認がなされ、午前中のコースの下見等もし、最終的な詰めの体制を作り、23日を待つことになりました。



上:展示コーナー
左:観察会の様子

● 9月23日

前日までは降水確率からして「まず雨」との予想を裏切って、まずまずの天気。少々風があったのが受付で手間取るものになりましたが、農業センターのジャンボカボチャ大会にも負けないくらいの参加者を迎え、指導員を含め、午前中だけで約150名の参加を数えました。

それぞれがコースに別れ、10時よりいよいよ記念行事が始まりました。自然観察会荒池コースでは荒池のパンを観察したり、身近な中にある興味ある出来事を改めて知ったりで、子どもたちのグループもそれなりに楽しんでいました。同針名神社コースでは神社特有の照葉樹林の観察や、それに混じったコナラなどの落葉樹の姿を見、さまざまなコオロギの声を確認しました。竹伐りでは里山管理の事に考えをめぐらせながら、一方では竹を素材にしたクラフトも作成され、参加者も楽しんでいました。

室内ではクラフトコースが設定され、親子でさまざまなものに取り組んでいました。「麦わらがこんなに固いものとは知りませんでした」との声も聞かれ、なかなか思うように出来なくて苦労した子どももいたようです。展示物に興味深く見入る人の姿も多く見られ、用意した各観察会の紹介パンフレットも早々となくなるなど、たまたま来た人の中にも「今度一度いつてみよう」という声もあったようです。新聞やテレビ局の取材もいくつかあり、一部は早速昼のニュースでリアルタイムに流れました。

午後は開催のあいさつを改めて行った後、来賓の方々の祝辞、主催者あいさつの後、名古屋在住の映像作家、岩木呂卓巳氏が作成した「虫々の詩」を鑑賞した後、作成にまつ

わる話題などを、その時のビデオを用いたりしながら講演していただきました。会場は必ずしも広くはなかったのですが、立ち見が出来、急遽椅子を増やすといったうれしいハプニングもあり、盛況でした。「昆虫」というテーマにつられてのぞいてみた子どもたちも映像のおもしろさに引き込まれ、満足していたようです。ただ、時間の関係で、本来ならば、事前の自然観察ラリーを踏まえた「名古屋の自然」について、さまざまな角度から紹介できなかったのが残念でした。

他支部からも幾人かの方が駆けつけていただけ、特に、後の茶話会では会の盛り上げに一役かっただき、大変ありがたく、ここにお礼申し上げる次第です。懇親会にも20名以上の方が参加され、支部を越えた話題に花が咲き、和やかなうちに会をとじることが出来ました。

会の目的として、普段あまり活動されていない方の発掘という点では、今ひとつといったところでしたが、とにかく個別に活動し、交流のない観察会のスタッフ同士が特に茶話会と懇親会でお互い知り合えたのは成果だったと思います。しかし、会の場でも申し上げました通り、20年というのは人生でいえば成人式です。私たちのすべき事はまだまだ山とあります。これからは、改めて会の体制を整え直して、新たな時代の要請に応えることの出来る会として、さらなる歩みを続けていきたいと思っています。

最後に、実行委員の方を筆頭に、指導員の皆様のさまざまなご協力ありがとうございました。

この1年 —それぞれの思い—

平成13年9月7日～9日に「愛知県民の森」で指導員講習を受講された方々に、この1年を振り返っていただきました。

【岩沢修】名古屋支部



◆この1年…「ゆっくり」がキーワードの「庄内緑地ネイチャー・フィーリング」に参加、愉快的なスタッフ仲間の足手まといにならなければいいのですが。これとは別に、ささやかに「小さな自然観察会」を開きたいと思っています。

【岩永省吾】名古屋支部



◆この1年間に新規の観察会を立ち上げたり、新指導員として活躍されている皆様方に敬意を表します。個人的には、観察会に2度参加しただけとお恥ずかしい限りです。出来る事を少しずつやっていきたいと思っています。

【大澤淳二】名古屋支部



◆研修を受けてもう1年が過ぎ様としていますが、なにもしなないであれよあれよの感です。前から参加させて頂いている「大森自然観察会」と研修後立ち上がった「庄内緑地ネイチャー・フィーリング」に加わっています。

【服部光孜】名古屋支部



◆服部、55歳です。講習会から1年、私は大高で諸先輩の足をひっぱり、8名の同期の仲間プラス、ナチュラリスト先輩2名で始まった庄内緑地ネイチャー・フィーリングの仲間として入れて頂き、足を引っ張っています。でも、自分流でがんばっていくつもりです。

【水野峰子】尾張支部



◆はじめの1歩として、みじかな稲沢公園を歩いています。勤務先の児童セ

みずの

30才の仲間

ンターの子どもたちに声をかけ、とりあえず、春、夏、秋、冬の四回です。時間のとりやすい日曜日に、のんびり歩いて、スケッチしたり、手づくり紙しばいもどきをしています。ご指導よろしくをお願いします。

【浜口美穂】名古屋支部



◆趣味と実益（仕事）を兼ねてあちこちの自然観察会に出役していましたが、やっと身近な平和公園自然観察会で継続的に活動していこうと決心しました。11月には近くの小学校の生活科の授業を平和公園で担当します。

【奥居達朗】西三河支部



◆岡崎野鳥の会に入れて頂いて、探鳥会に参加しています。また、岡崎中央総合公園内の里山復活事業にボランティア作業で参加。本年10月オープン「岡崎自然体験の森」での自然観察会を毎月定例的に行うべく準備中です。

【南川陸夫】知多支部



◆緑の腕章を預かって、早いもので1年が過ぎた。上を仰ぎ・下を眺め・左右を観て、自分の足跡を省みる事が、出来なかったなと、反省しているのが今の心境である。◆私は現在、知多支部に所属しています。幸いにしてこの支部の諸先輩の方々は、各分野に長けた方々が、多くみえるし、又活動も年間を通して、殆ど毎週この知多半島の地区にて、観察会が実施されてます。◆最近では、小学校での総合学習の一環として、自然観察会が採用され始め、支部に要請が学校にも、観察会に未熟な参加しています。このように知識と経験豊富な、諸先輩の方々から学び、環境に恵まれたフィールドを活かし、五感を働かし、当面は広く浅く学び、その過程と延長上で自分の得意分野を見出したいと考えています。◆自然から学ぶ物と現象の大切さと、諸先輩と仲間達から学び、観察会に参加される方々と自然を大切に繋げるべき観察活動が出来ることに、感謝しつつ。

【加藤良子】尾張支部



◆定例の自然観察会へ

一度も参加することなく、一年が過ぎました。でも、春日井少年の家での行事に、下見と、本番に参加したときは、とても楽しかったです。海上の森のように、豊かな自然に、感動しました。

◆中西です。昨年の10月か

【中西たかお】名古屋支部



ら、既に実績のある「東山自然観察会」に入れて頂いてそのお手伝いをしています。また今年4月からは、岩沢修さんをリーダーとして同期生8名+2名で、「庄内緑地ネイチャー・フィーリング」を立ち上げております。

【寺西広晃】名古屋支部



◆現在、岩沢さんたちといっ

しょにネイチャー・フィーリングを庄内緑地で実施しています。初めてのことで、とにかく邪魔をしないように、ということだけで精一杯ですが、毎回多くの仲間と楽しく活動させてもらっています。

◆とても充実した1年でした。

【松浦礼子】名古屋支部

やればやるほど自分が何も解っていないことに気が付き考えさせられてばかり。自然って奥が深い。指導員としてはまだまだです。当分あちこちの観察会にお邪魔して勉強させてもらおうつもりです。使ってやってくださいね。

この企画の、原稿依頼にご協力頂きました

皆さんに心より感謝申し上げます。

(編集担当／中西たかお)

海上の森から

報告●近藤義裕／尾張支部

先日、愛知県主催の『森とのふれあい体験プログラム』が海上の森で開かれました。当日の朝方は少し強めの雨が降り、開催が心配されたものの、時間前には雨も上がり観察会は始まりました。銭谷興産跡地に集まった参加者や関係者は総勢50名以上の大集団。5つのグループに別れ、海上の森へいざ出陣。

森の入り口までは各グループ混戦状態。森の中に入る頃には適度に間隔が開き静かな小集団になりいつもの観察会に変わった。森の中は雨上がりの事もあるのか、多くのおいしそうなきのこがあちこちで生えていました。私のわかったのはイグチ（ヤマイグチ？：生食不可）の仲間だけでした。尾根筋では貧栄養性の砂礫地盤の話。これにまつわる東海湖の話。この東海湖があった周辺に見られるのが、シデコブシであること。余談ですが『マメナシ』も東海湖のあったとされる周辺で見られる樹木で、このあたりでは守山の東国山付近

で少し見られる珍しい木です。ここ以外では国・県・市・町の天然記念物に指定されているくらいです。ただ、海上では見られないようです。

また、痩せ尾根付近では地衣類で『トゲシバリ』が見られます。このコケは、一般的に標高1000mを超える落葉樹林帯・針葉樹林帯等に見られるものですが、湿度等の条件が良い低地の松林、この海上の森で見られます。他にも色々ありますが、説明をしなくても皆さんはよくお分かりかと思います。

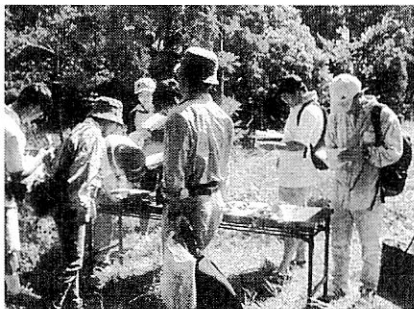
午前中で観察会は終了。午後からは、間伐材等を利用し森の工作に励む。まずは樹によって木肌の違いを感じ、のこぎりで切りやすさの違いを調べ、後は野となれ山となれ、エンヤコラ、エンヤコラギーコ、ギーコ……。

午後3時位、『森とのふれあい体験プログラム』の第1回は無事に終了した。

「みどりとのふれあい事業」

報告●吉川洋行／知多支部

毎年恒例の教員を中心とした研修会「みどりとのふれあい事業」を、今年も8月28日（水）に行った。今年は武豊町富貴地区の東大高公民館を主会場とし、知里付（ちりゅう）神社での樹木観察、林業専門技術員による講話、新川（小川）での水生生物観察、トークセッションなどを行った。参加費は無料である。自然



「これはなんだろう？」

観察指導員17名、愛知県知多事務所林務部職員5名、参加者約40名で、グループは4班に分けた。

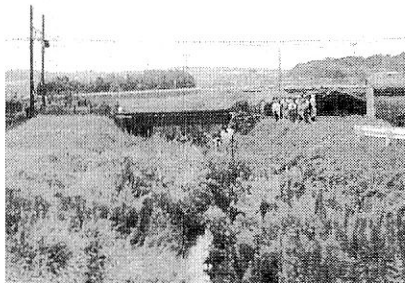
午前中は近くの知里付神社内の森へいき、「樹木名当てゲーム」と「宝物さがし」をした。樹木当ては、机に用意された木の枝と、全員に配布された樹木図鑑とを比べ、解答用紙にその木の名前、境内の木に下がっている札の番号を書き込むというもの。クスノキ、ヤブニッケイ、スギ、ヒノキ、モチノキ、ヤマモモ、カクレミノ、ヒサカキ、サカキ、シャシャンボなど、指導員には簡単だったが、参加者がとても迷っていて結構難しいことがわかった。それから社叢の植林地域、自然林地域を回って観察した。ヤマモモの古木や、クサギの花、とげだらけのアカメガシワの実、クサネムの笛などに関心が集

まった。

午後は、森の樹木の働きについて林業専門技術員のお話を聞いてから、川に向かった。幅数メートルの小川だが、川縁にはツルボが咲き、見た目はけっこうきれいだった。手長エビやスジエビ等エビが沢山とれ、ザリガニは少なかった。フナやメダカは全く捕れなかったもののヤリタナゴはいっぱい捕れた。ヤリタナゴが多いのは、ここと内海の川だけだそうだ。カマツカ、ヨシノボリ類、タモロコ、カダヤシが捕れ、大きなアユが捕れたときはみんな驚いていた。(サンプルを除き、ほとんど元の川に戻した。) 海に近く汽水が入り込むので、マ

シジミとイシマキガイが見られた。近くの田んぼでは、ミズワラビが群生し、キクモ、ウリカワやオモダカも見られた。戻ってから活発に意見交換ができた。

小さな川でもいろんな生物が！



名古屋支部視察旅行

トンボの楽園中池見湿地と伝説の湖夜叉ヶ池を訪ねて

報告 ● 萩原育男 / 名古屋支部

●9月28日 豪雨が予想される中、滝田さん・森さん・近藤さん・石川さん・萩原の5人は森さんの運転で名神高速道路から北陸自動車道に入りました。

今庄インターを降り、曲がりくねった林道を30分夜叉ヶ池登山口に付きましました。車を降りると、本州中央部の山地にしかないアカギリが美しい青紫色の花で迎えてくれました。登山口付近には、ツリフネソウ・レモンエゴマ・ヤマシロギク・コアカソなどの花が咲き、森林はスギ・ヒノキの植林は無く原生林に近いものでした。

登山道は木や草もよく保護されていて、たとえばイワタバコが道沿いの岩いっばいに付いていても一ヶ所も抜き取られた様子が無いことに感心させられました。

●9月29日 薄曇りで絶好の観察日より。今庄から一路8号線を敦賀に向かいました。8号線バイパスの湿地が見えるところには「ナチュラリスト敦賀 緑と水の会」の田代さんが待

っていてくださり、丁寧に湿地を案内して下さいました。

中池見湿地はご存じのように、大阪ガスがガス基地を建設しようとした一帯を地元NGOが中心となって保全・保護運動の結果、貴重な湿地が残されている所です。

三方山に囲まれた湿地にはトンボの楽園といわれるようにマコタテアカネなどのアカトンボ類が舞い、イトトンボ類も見ることが出来、また、湿地特有のミズトラノオ・サワアザミ・サワヒヨドリなどが生えていてじっくり観察することができました。

この湿地はほとんどが休耕田でいたる所にセイタカアワダチソウ・コガマの群落があり、ほっておけばすぐにこれらの植物で被われてしまうのではないかと思われました。小人数で25ha土地をどのように保っていくのか、ボランティア活動だけではとうてい無理のようです。国・県・市町村の保全活動の手助けの必要性を感じました。

環境デーなごや2002

- 9月8日(日)10時～16時
- 栄・もちの木広場にて
- 主催/環境デーなごや実行委員会(名古屋市、公共団体、各種団体、事業者団体などで構成)

まだ強い日差しが照りつける9月8日、もちの木広場・久屋大通公園・エンゼル広場など、栄の公園を使い、「環境デーなごや」のイベントが行われた。「相生山緑地」「平和公園」「東山」「明德公園」の各観察会も、もちの木広場で出展。パネルなどの展示、ネイチャークラフト、葉っぱの絵はがき作り、ススキバッタ作りなどを行い、午前中からたくさんの親子が訪れ楽しんでいた。

今年の環境デーの最大の特色は、各会場(公園)に、「市民プラザ」という一般来場者や各出展者を巻き込むような市民による企画の場を置いたこと。もちの木広場の「市民プラザ」は近藤記日子さんと浜口が担当した。内容は、来場者にタラヨウの葉にエコメッセージを書いてもらいオブジェを作るこ

⇒「名古屋自然観察会」ブース出展



と、ネイチャーゲーム、「エコマップを作ろう」ということで、「おすすめ自然スポット」「いきもの」などの情報を集めてマップに落としこんだ。

名古屋市内の貴重な自然や大切さをアピールするせっかくのチャンス。思いをともにする自然観察指導員が協力し合ってやりたかったが、準備期間が少なかったこともあり、協力があまり得られなかったのが残念。でも、「都会のど真ん中で自然を感じた」というエコメッセージや「名古屋にも自然がいっぱい残っているんだね」という感想もあり、来場者にそれなりのアピールもできたようだ。来年はぜひ、一緒にやろまい!!

報告●名古屋支部/浜口美穂

渾身の自然を守れ!

伊良湖フォーラム02

●10月6日 13:00～16:30 ●於伊良湖ビューホテル黒潮の間

今年は愛知県が後援してくれて、自然環境課の石田晴子さんが鄭重な来賓挨拶をしてくださった。講演は、「レッドデータあいち」の淡水魚類にちて駒田格知氏が、両生・爬虫類について大竹勝氏が、鳥類については稲田浩三氏が、それぞれ興味深い話をしてくださった。

淡水魚の祖先は、大陸から伝ばんしてきたものと海からあがったものがあるという。大陸伝来の淡水魚では、コイ・ナマズ・メダカなどは、関東地方まで伝ばんしていったが、ネコギギ・アジメドジョウはこの地方までで止まってしまった。また、琵琶湖までで止まってしまったものや、琵琶湖までも届かないものもあるそうです。トウキョウサンショウウオは、長

い間いろいろのいきさつがあったらしいが、最近、「カスミサンショウウオ愛知県産個体群」と呼ぶようになったそうである。関東地方にいるのがトウキョウサンショウウオで、愛知県のものを、長い間トウキョウサンショウウオと言っていたのは間違いであった?鳥類についても、ブッポウソウ・ヨシゴイ・クロガモ・コアジサシ・ミソサザエなどの沢山の興味深い報告があった。

3人の講師の詳しい話しは、テープ起こしをして、来年の伊良湖フォーラムまでに印刷製本しますので、興味のある方。来年の伊良湖フォーラムにご参加くだされば有り難いです。

報告●小柳津 弘・大羽 康利

会 員 リ レ ー

【村瀬由理】(むらせゆり・名古屋)

いつもわくわく、いつもるんるん!! 知多の村瀬由理です。「自然観察」と出会ってから、何年になるでしょうか? 指導員となつてからは、途中でのお休みを挟んで、子連れとなつても続けています。そして、毎回の観察会が、いつも発見と感動の連続です。今、(いままでもそーでしたが) 一番好きなことは「モノひろい」です。落ちていて拾っていい物ならなーんでも拾って、コレクトしています。最近の大モノは、「フタバガキのなかま」の実(マレーシア・ボルネオ)、「シリブカガシ」の実(熱

田神宮)、「トモエガ」の死体(豊明市: 病院の駐車場)「謎のマメ科・帰化植物」

(知多市: にしの台) <ただ今、何ものかを問い合わせ中> などなど・・・!! でも、拾えないモノも好きです。風の音、虫の声、森の香り、青い空・・・。あー、「生きてる」って素敵です。みなさんも知多の自然観察会に来てくださいね。

★バトンを渡す人

名古屋支部「山田妙」さんをお願いします。



【岩崎員朗】(いわさきかずお・東三河)

自然観察指導員になつてもうかなりの年月が経つのに、自己研鑽が乏しく、知識、説明内容に進歩が見られません。

この春、地元の小学校から潮干狩りを兼ねた海岸生物の学習の講師を依頼され、3年と6年を受け持ちました。3年生はまだ素直で、興味を持って話を聞いてくれたのです

が、6年生になるともう興味の有る無しで生徒の反応が分かれ、ほとんどが話しをきいていない生徒も大勢いました。

学校の先生の大変さと関心の薄い人にも聞いてもらえるように話すことの難しさを実感しました。

★バトンを渡す人

西三河支部の三田孝さん、お願いします。

【井城雅夫】(いのしろまさお・名古屋)

名古屋支部の井城です。名古屋市内は県内の他地域に比べて、一般に「自然」が少ないところですが、道端の草花に目をやるなど、普段の生活の中で自然を探してみようと思っています。(余所見ばかりして、そのうち交通事故に遭いそうですが。)

最近の私のお気に入りの自然探しのツールは、「自転車」です。ちょっとした移動に自転車を使うと、車や電車で移動すると見落としがちな「自然」を多く見つけることができます。特に河川の堤防の上の道路は見晴しも良く、河川敷内は都市近郊とは

いえ自然が残されています。私の近所の庄内川の堤防の道路からは、春のヒバリや夏のオオヨシキリの囀りが聞こえ、秋には月が美しく、冬にはカモや遠くの山々が見え、ちょっとお気に入りのルートです。あとは、堤防の上を通行する車がなければ、安全に「道草自転車生活」が楽しめるのにと思っています。

★バトンを渡す人

名古屋支部柴田美子さんをお願いします。

部会報告

観察会部会

●8/30第一回(7名)

＜第一回＞会員の行っている観察会についての意見交換に時間をさく。その中から「どこでどのような観察会が行われているか、実態の把握をする」「協議会所属の指導員の有志で観察会の企画を考えて活動する場を広げてはどうか」「ネイチャーフィーリング観察会への参加への呼びかけ」などの話題が出てきた。

●9/27第二回(4名)

＜第二回＞「ふるさと自然観察会」を地元住民の参加とともに指導員相互の理解も深める機会になるよう継続実施をしていくことを話し合うとともに、指導員がお互いに知り合うことが一番必要であるということが話題になる。忙しい中ではあるが研修および親睦会の実施が必要不可欠であると指摘された。

(鬼頭)

広報部会

広報とは、協議会の活動状況、指導員の能力などを、(官公庁、企業、各種団体や一般の人に)広く伝える部門である。また、問合せに対して、適確な対応も大切な業務。このためには、どうしても、パソコンの活用は必要である。となれば、Eメール、ホームページの作成などに機能できる人もということになり、さし当たって現在のメンバーの中には、時間的にも出来る人が居ない。ということで、いきなり壁に突き当たってしまった。今までのように、マス媒体への売り込み程度のことなら、アポイントをとり、資料を持参すればすむことであるが、少なくとも、これからの協議会の広報としては、おそまつ過ぎる。ということで、何をおいても、早急に出来る人の手当てを！・・・が第1回目の結論である。

(青木)

普及部会

昨年度は、観察会ごとの観察マップをまとめるという活動を考えていましたが、ほとんど協力が得られず挫折しました。しかし、現在の所、委託資料の作成もなく、さしあたり「普及資料の作成」に主点をおいて活動することとしました。内容としては、「自然観察の手引き」的なものを作成することとしました。例えば、「話し方のこつ」とか、「資料提示の仕方」といった初歩に始まって、「〇〇さんの鞆の中身」、「便利な道具」のような話題まで、冊子を作るだけの予算がないので、協議会ニュースに場を借りて発表していきたいと思います。次回は、国道1号線、名鉄桶狭間駅西のガストで、19:00ごろから食事をしながら打ち合わせを行います。(山田)

研修部会

《組織作りと体制》

第1回の打合せの参加者、私と知多支部の沖田さんでした。2人では組織になりません。知多支部の2人が運営するののもうかと思いましたが、今後、県内各支部から部員を募り、できれば各支部から最低1人の参加を望む。

《事業内容》

現段階では決めようがない。当面、知多支部の観察旅行を研修事業として実施したい。

《今後の課題》

- ・研修部の部員…各支部ごとに1～2名部員を出していただく。または、めばしい人に当たる。
- ・研修内容…実務的なこと、教養的なこと、親睦的なことができればいいが。
- ・実施場所…集まりやすい場所、目的名あった場所、支部持ち回りなどが考えられる。
- ・実施回数…できれば、年2回位できるといいが。

(降幡)

※興味のある方、参加してください。

平成14年度「ふるさと自然観察会2002」を終えて

報告・鬼頭弘

6月の環境月間を中心に、広く自然環境に対する理解を深めてもらい、次のようなテーマで6支部に取り組みをお願いしました。

1. 身近な生物の生態に親しみ、自然環境と生物の多様性のあり方に関心を広げる。
2. 新人を含め、多くの指導員の参加を呼びかけ、今後の各自の活動に資するものにする。

【各支部の取り組み】

西三河支部	5月18日(土) 9:30～12:00	「新緑の大滝溪谷を楽しもう」 大滝溪谷P集合	一般:4/指導員:7
奥三河支部	5月25日(土) 10:00～13:00	「乳岩峡の新緑を楽しもう」 JR飯田線川合駅前P集合	一般:15/指導員:10
名古屋支部	6月1日(土) 9:30～12:00	「お宮の森、残された森」 天白区平針針名神社P集合	一般:8/指導員:4
東三河支部	6月8日(土) 18:30～20:30	「朝倉川のゲンジボタルの観察」 豊橋市東陽地区市民館前集合	一般:49/指導員:16
尾張支部	6月15日(土) 10:00～13:00	「棚田の生き物たち」 瀬戸市定光寺山門前P集合	一般:27/指導員:11
知多支部	6月30日(日) 9:30～12:00	「森の妖精・キノコに会いに行こう」 大府市二つ池公園P集合	一般:20/指導員:7

<実施後の感想から>

西三河：実際に歩いて五感を使って観察することが一番であることが分かった。

奥三河：清流と自然林そして天然のすばらしさが堪能できた。

名古屋：このまま放置しておく常緑樹林への遷移や竹の侵入が心配される。

東三河：ホテルの人気は絶大であった。内容が盛りだくさんになった嫌いがある。夜間観察会は昼間に行う観察会と比べていろいろな障害があるが魅力的なものであった。

尾 張：大勢で田植え後の田んぼに入る難しさや、公園の生き物をすくうという行為が許されるのかを考えさせられた。

知 多：30年ほど前、キキョウなどが見られた松林がヒサカキやシャシャンボが密生した暗い林になっていた。景観を優先した公園作りが多いが整備時に伐採した木の一部を残しておいてもらいキノコの観察に役立った。

来年も環境月間の観察会実施の取り組みは継続していきたいと思います。内容については事務局の観察会部会で検討しお知らせします。ご協力をお願いします。

※後援依頼先：愛知県、愛知県教育委員会、中日新聞／共催依頼先：日本自然保護協会／広報：チラシのひな形を配布(中日新聞の催し物欄に掲載)

行 事 予 定

日時	行事名	場所	内容	問合せ
11/17	一色の磯の自然を探ろう (東三河支部)	赤羽根町・一色海岸太 平洋ロングビーチ	海岸の自然をさまざまな角度から観察しよ う	(0532) 47-0331 影山博史さん
11/23～24	知多支部研修会 (知多支部)	尾張方面	尾張支部定例観察会への参加、交流会	0569-43-8060 降幡さん
11/29	協議会部会	名古屋ボランティア NPOセンター	観察・企画・普及・研修・広報の各部会、 「協議会ニュース」編集会議	「協議会ニュース」編集部 ※下記参照
2003 1/7～13	パネル展示等	栄セントラルパーク 地下情報ギャラリー	各観察会の案内パネル、写真・観察会チラ シの展示等	052-771-8004 石井さん

募集

2003年1月7日～13日まで、栄セントラルパーク地下の情報ギャラリーにて各観察会の案内パネルと写真・観察会チラシ等の展示を行います。写真やチラシ等展示したい方は11月末までに石井さん(052-771-8004)までお問合せください。なお、展示物は各自で持ち込み・撤去となります。

●編集後記

素人集団の新編集部体制でスタートして3号目をお届けします。隔月発行という目標は維持できました。限られた紙面の中でいかに質の向上を図るかが今後の課題です。アイデアをお寄せください。

(名古屋支部・国安俊夫)



●スタッフ

石井幸子、石田晴子、岩沙雅代、鬼頭弘、国安俊夫、近藤記巳子、佐藤国彦、杉浦節子、中西たかお、浜口美穂、符川真弓、降幡光宏、古川俊江、松浦礼子、横井邦子、横田法子、吉田裕孝

【今号の表紙】 知多支部・村瀬由里

～どんぐりいろいろ～

- マテバシイとシリブカガシのちがいは？
- ・マテバシイは春に開花。秋(次の年)結実。
 - ・シリブカガシは秋に開花。花と果実が同時に見られる。

※みなさまから頂いた原稿は内容を変えない程度に校正することがございます。あらかじめご了承ください。

●ご意見・ご感想をお待ちしております。

愛知県自然観察指導員連絡協議会 協議会ニュース編集部
491-0057 愛知県一宮市今伊勢町宮後
字西松山43-1 大野荘B-106 吉田裕孝
TEL/FAX 0586-43-3829